



# 内間・平安名の文化財



## 民俗文化財・その他文化財

- 1 中門墓
- 2 ワイトウイ (町指定)
- 3 フトキントウ
- 4 ナーテラ
- 5 平安名ノロ殿内
- 6 五穀の宮
- 7 平安名の籾屋
- 8 シキン御嶽
- 9 ウーブ御嶽
- 10 内間の籾屋
- 11 内間のホウヤー木跡
- 12 村屋跡
- 13 馬場跡
- 14 村神
- 15 上新垣御神屋
- 16 小舎覇門中の御嶽
- 17 仲吉門中の御嶽
- 18 浜殿内の京判墓

- 印は民俗文化財・その他の文化財
- 印は遺跡
- 印は井泉

## 平安名のウミ・クエーナ (町指定/無形民俗文化財)

字平安名のウミイやクエーナは、旧正月三日の年頭祈願、七年ごとの神元拝みなど、パーパーターシンカやノロ、神人達によって謡い継がれた古謡です。それらの古謡は、36曲にもものぼり、現在では、パーパーターシンカ十数名で謡われています。節入りは、決して単調なものではなく、古典芸能の大筋にも匹敵するような複雑な節が入っています。このように、字平安名には他地域では、謡われることの少なくなった古謡が数多くパーパーターシンカによって村の祭祀・生活の中でしっかり伝承され、貴重です。



**8 白川**  
白川は、内間村のウブガーになっています。正月、二月・六月ウマチーの時、神人が身を清める井泉でもありました。



## 平安名エイサー

平安名エイサーの入場(入羽)は、「われら青年今年もお盆の踊り始まる村の広場で老いも若きも…」という歌詞をつけた「秋の踊り」の曲に乗せて始まります。この歌は、約50年前に当時の青年会が創作した独特なもので、今日でも生き生きと歌い継がれています。コッケイ踊りは、村の古老にふんし、入場する際に左手を腰に当てながら、センスル節のリズムに合わせて入場します。歌詞は、古老たちから見た自分達の集落や世相をユーモラスに風刺したもので、滑稽な容姿・激しい踊りで表現します。そして村の繁栄と世の中の幸福を祈りながら「村の青年達よ、早く出てこい。我々年寄りも遊び(踊り)は好きだからお互いに踊りあかそう」という歌い文句で終わり、退場し、エイサーが始まります。



## 2 平安名貝塚

平安名集落西方約400mの斜面地にある沖縄貝塚時代前期(約3500~2500年前)の貝塚です。中城湾を見下ろす標高約40mの斜面地に形成され、琉球石灰岩の間や岩陰に遺物を含んだ黒色の堆積層があります。1955年に発見され、発掘調査が行われました。狹堂式・大山式土器のほか、櫛目状の文様を有する平安名式土器も出土しています。さらに、石斧、骨製品、貝製品なども発見されています。



## 11 内間のホウヤー木



**11 内間のホウヤー木跡**  
内間のホウヤー木は、内間村の歴史を語る貴重な古木でした。18世紀の終わり頃、内間村が与那城交差点の山側にある古島原から、現在地に移動した時に植えられたと伝えられています。村のウステークにも、内間這うや木め 枝むちめ美らさ 内間みやらびぬ 身持ち美らさ 残念ながら平成8年の台風により、倒れてしまいました。



## 13 馬場跡

内間の馬場は、現在の与那城小学校にあった「北馬場」に対して、「南馬場」といわれていました。民話によると、この馬場で豊年を祈願するアブシハレーのとき、馬ハラサー(競馬)を開催し、他地域からもいい馬が集まったといわれています。

## 8 内間貝塚

中城湾に面する丘陵斜面の中腹(標高約30m~60m)に形成された、沖縄貝塚時代前期~中期の貝塚です。1955年に高元政秀氏によって、発見されました。採石により部分的に破壊されています。



## 5 ヒドゥンガー(比殿)

ヒドゥンガーは、石灰岩の崖下1m位の半円形状の水面から流水しています。現在はコンクリート製の貯水タンクが設置され、農業用水に利用されており、水量は勝連半島随一です。伝説では、ウーブ御嶽シンニンガマの神様が、このカーを利用したと伝えられています。

